

来週の市場とレート予想

	2/13 (月)	2/14 (火)	2/15 (水)	2/16 (木)	2/17 (金)
無担保O/N	△0.086% ~ 0.001%				
銀行券	+ 900	+ 1,000	ト ン	△ 1,000	△ 1,000
財政他	△ 20,400	△ 4,000	+ 56,000	△ 26,000	△ 3,000
資金需給	△ 19,500	不 3,000	+ 56,000	不 27,000	不 4,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M) 国債発行(30年) 交付税特会借入・償還	源泉税揚げ	年金定時払い 国債発行・償還(2年)	国債発行(5年)	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,500 国債補完供給 + 3,700 CP等買入 △ 200				
オベスタート	共通担保(全店) + 1,400 ETF買入 + 700	短国買入 + 15,000 国債買入 + 11,400			
(日本)	10-12月期GDP(速報)	日銀営業毎旬報告 (2月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額		対外対内証券売買(前週分) 業態別の日銀当座預金残高 (1月)	
(海外)		米 イエレンFRB議長、上院 銀行委員会で証言 米 ダラス連銀総裁講演 欧 ユーロ圏10-12月GDP	米 NY連銀製造業景況指数 (2月) 米 消費者物価指数(1月) 米 小売売上高(1月) 米 鉱工業生産指数(1月) 米 NAHB住宅市場指数(2月) 米 イエレンFRB議長、下院 金融委員会で証言 米 フィアデルフィ連銀総裁講演	米 住宅着工件数(1月) 米 新規失業保険申請件数 (11日終了週) 欧 ECB議事要旨	米 景気先行指標総合指数 (1月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.04 ~ 0.001
SPOT 2M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 3M	△0.02 ~ 0.001
SPOT 6M	△0.02 ~ 0.001

<インターバンク>

今週の日銀当座預金残高は、週初322兆円台から始まり、7日以降は国債・国庫短期証券買入オペ等によって増加し、325～326兆円台で推移した。

無担保コールON物は、週初△0.075～△0.03%で取引されたが、週央からは積み最終日を来週に控え調達需要が強まり、△0.045～△0.015%で取引された。また、週を通して複数の試し取りが実施され、+0.001%の出合いも散見された。加重平均金利は週初の△0.046%から上昇し、週央は△0.035～△0.027%で推移、週末3日積みとなる10日は△0.023%となった。ターム物は1～2W物を中心に△0.025～△0.01%での出合いとなった。

9日にトランプ米大統領は2、3週間以内に大幅な法人減税策を明らかにすることを示唆した。トランプ米大統領の発言を受け、10日には外国為替市場でドル円がそれまでの112円近傍から円安が進み、113円台後半となった。

来週の予定は国内では10-12月期GDP(13日)があり、海外ではイエレンFRB議長議会証言(14日上院銀行委員会、15日下院金融委員会)がある。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	0.000 ~ 0.005
TDB 3M	△0.250 ~ △0.150
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行額は約3,700億円で、期落ち額約2,000億円(金融機関・ABCP除く)を上回った。前週に引き続き、卸売の大型発行が全体の発行量を押し上げた。

a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.0010%割れで推移した。

現先レートの中心は、-0.100%～0.000%程度で推移した。

来週の期落ち額は5,700億円程度となっている。

<TDB>

9日に国庫短期証券3M第661回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.1904%(前回債△0.2625%)、平均落札レートは△0.2128%(同△0.2709%)と前回債と比べて利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.225%近辺の地合いとなっている。6Mは△0.21%近辺の地合い、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週15日に1Y、16日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.085%～△0.09%の出合いから始まり、週央まで同レベルで推移した。短国3Mの発行日となる13日受渡しでは、△0.085%近辺から始まったが調達ニーズが大きく残る展開となり、T/Nでは△0.06%台まで上昇した。週末には国債・国庫短期証券買入れオペがオファーされたがレート低下には至らず、△0.07%～△0.06%の出合いが多く見られた。

SC取引では、週を通して5年130回債の引合いが多く、週後半は△0.60%を超える取引も一部見られた。10年345回債は1～2wで△0.30%台前半の出合いであった。他2年370・371・372回債、5年126・127・128・129回債、10年333・334・343・344・345回債、20年158・159回債、30年50・51・52回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。